（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援　放課後等デイサービス　ポニーナ幕張本郷			
○保護者評価実施期間	令和8年7月6日	～	令和8年8月1日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	9人	（回答者数）	8人
○従業者評価実施期間	令和8年7月6日	～	令和8年8月1日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	9人	（回答者数）	9人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年8月21日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者様（児童）保護者様からの事業所に対する満足度が高く、事業所内で楽しく過ごしたり、支援を受けたりしている点。集団活動を通して、集団でのルールを学ぶことが出来ている点。	余暇の時間を多く取ることで利用者様（児童）が楽しく過ごせる環境を提供している。遊びの時間の中で言葉の伝え方や気持ちの言語化を促し、トラブルの対処法について都度助言や支援を行うことで利用者様（児童）の成長に繋げていけるように取り組んでいます。	利用者様（児童）の興味、関心を引くような遊びを提供し、遊びを通じて、手指の巧緻性、体幹、社会性やコミュニケーション能力の向上に繋がるような支援に取り組んでいきます。
2	集団療育のプログラムの内容、多彩なイベントを企画することにより、多くの体験を得られるように計画している点。	職員間で話し合いを設けることでバランスの良いプログラム内容を相談、立案、修正をしている。また、過去に実施したプログラムを記録して保存することで、各プログラムの実施サイクルを把握するようにしています。	季節のイベントを意識したプログラムを実施、製作物を飾り付けすることにより達成感を得られるように取り組んでいます。
3	法令を遵守した上で保護者への説明義務等を果たすことで、信頼関係の構築に努められている点	保護者との信頼関係を構築・維持する為に送迎時等で保護者へ説明するべき事項が生じた場合は確実に行う。もし失念した場合は、電話やメッセージをその日のうちに行う等の取り組みを怠らないようにしています。	普段お会いすることができない保護者の方もいるので、定期的に電話やメッセージ等でコンタクトをとっていくことで、さらなる信頼関係の構築に繋げていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所内の訓練室等の部屋のスペースが狭い為、集団療育等を実施する際に窮屈に感じることがある点。	部屋の敷地面積に対して、1日あたりの利用者（児童）と職員の人数のバランスがやや保ててない部分があると考えられます。	収納スペースを増やしたり、使用していない物品を処分したり、空間の確保に取り組んでいきます。
2	地域住民や児童会、父母会、関連事業所との関わりが希薄である点	児童会等の連携が薄いことで、先方が主催するイベントについての情報が届くことが少ないことで、関われる機会が少ないことが要因と考えています。	送迎時等で対象児童の様子を定期的に伺う等、コミュニケーションを取る機会を作りながら関係性を構築していくことで、双方で交流しながら活動する機会を作れたらと考えています。
3	児童発達支援に携わる研修への参加、職員への情報共有が乏しい点。	研修の情報を積極的に収集出来ておらず、結果参加頻度が少なくなっていると考えられます。	案内が来たものや公開されている情報を積極的に収集し、可能な限り研修や講演会に参加し、研修記録を職員間で共有していきます。